

市第133号議案(関係部分)及び市第144号議案の審査

(加納副委員長) 中小企業振興基本条例について、道路局の事業というのは市内企業ということからすると、大変大きなウエートを示しておりますので、そういった部分では、しっかりと進めていただきたいということがまず1点。これは要望だけさせていただきます。

それから、先ほど牧嶋委員のほうからお話をいただきましたけれども、予算をなるべく縮減をという話はもちろん前提だけれども、道路建設事業団の事務所が、関内の最寄り駅から数十メートル、何分というところにあること自体どうなのかということがありますが、これはある意味ではもう一方の角度なので、局長が全体として縮減しますよということはもちろんわかるのですが、特に牧嶋委員が強調していたのは市民感覚からしてどうなのというその辺のことだと思うのです。そこのところをしっかりと確認していただきたいということなので、それもひとつしっかり見ておいていただきたいと、これも要望しておきます。

それから3点目は駐輪場の問題ですけれども、最寄り駅等で市内各地、駅がございますけれども、そこで電車を使用している方、そして駐輪場の台数、さらに駐輪場に置かない放置自転車の台数、この辺のデータというものは持っているのですか。

(島田担当理事兼副局長兼総務部長) 放置台数については、年1回、11月に調査しておりますので、データは把握しております。あとは駐輪場のキャパシティ、あと実際に置かれている台数は管理運営の委託をしておりますので、そういう中で把握をしております。

(加納副委員長) その中で、先ほど来議論があったように、駅前周辺が狭いとか駐輪場設置ができないとかということもおのずと見えてきていると思うのです。それはどのくらいあるものなのですか。今言ったデータは持っている中で駐輪場を設置したいところはどのくらいあるのか。でも、駐輪場は設置できないというものはどのくらいあるのですか。

(島田担当理事兼副局長兼総務部長) データとしては平成21年11月のデータですけれども、放置台数が多い駅周辺が整備の優先度が高いところと認識しております。例えば、平成21年11月の調査ですと、横浜駅あるいは伊勢佐木長者町駅、石川町駅、鶴見駅が多くなっておりますので、そういうところについては、適地を探して整備を進めていっておりますし、ほかのところもそういう情報を入手したら、適地を探した上で整備を進めていくという努力は毎年毎年やらせてはいただいているのですけれども、適地が見つかる場合とそうでない場合ということが今まで続いていまして、現在の整備状況になっているということでございます。

(加納副委員長) 多分適地が見つからない、そして駅前ですから地価の問題もあるでしょうし、さまざまな条件が重なってなかなか難しいということもあるでしょう。そういったことからすると、先ほど各委員の方がおっしゃった新たな駐輪場の考え方、そしてまたどういうものを設置するかという、いわゆる費用との問題も含めてあるかと思うのです。または、社会的にエコ化や健康志向とさまざまなこともあり、私どもの会派の榊原委員のほうからの発言もあったように、自転車に乗る方、乗っている方のマナーの問題や、周辺とのバランスの問題も一方であるので、そういったことを総合的に考えていただいて、いずれにしても高齢化が進む、そして最寄り駅周辺にはスペースがないということからしますと、今のようなデータをもとに新たな駐輪場の対策をどうするべきか。私が住んでいる瀬谷も駅前に駐輪場があるのですけれども、機械式で非常に難しい。どっこいしょと持ち上げて入れ込むのがなかなか難しそう、本当に難儀しているという声も聞きますので、そういった部分では、私ども常任委員会として視察させていただいた、ああいった新たな機械式自転車駐車場への展開も、そろそろ横浜市もしっかり考えていただきたいと思っております。

先ほど局長のほうから御答弁いただきましたので、どうぞ中長期的に考えていただいて、なるべく駅前に皆さん方が自転車で来てスムーズに出入りして利用できるような環境整備をつくっていただきたい、これをまた要望として申し上げておきます。